

必勝！ 9月からの学習対策【英語】

＝ センター試験対策 ＝

現在、模試得点160点以上の場合――

- ▷ 記述力の養成こそ、最高のセンター試験対策。センターオンリーの学習は直前期12月まで待つ。
- ▷ 昨年度のセンターを本番通りの時間で解くことからスタート。解答手順と解法そして時間配分を検討し戦略を立て、模試を受験する度に微調整をはかる。
- ▷ 「時間との勝負」を意識し、本番より5分短い時間での解答を心がける。
- ▷ 第1問の発音・アクセントの問題は学習に見合うだけの得点がとれる分野なので、早い段階で対策を行う。
- ▷ リスニングは短時間でも毎日ある程度まとまった英文を聞く。週に一度は聞き取った英文のディクテーションにも取り組む。

現在、模試得点120点以上の場合――

- ▷ 記述の問題もこなすことで「総合力」を身につける。
- ▷ 今まで使ってきた教科書&問題集を繰り返し復習する。
- ▷ 昨年度のセンター試験を本番通りの時間で解き、配点の高い問題を落とさないように、解答する順番、解答時間、解法の戦略を立て、微調整をはかっていく。
- ▷ 過去問を一通り解き、弱点分野を発見し、センター分野別問題集で補強する。
- ▷ リスニングはセンター試験タイプの問題にコンスタントに取り組み、耳を慣らすとともに出題傾向を把握する。

現在、模試得点120点未満の場合――

- ▷ 授業でやった教科書・副教材を柱にして学習を進める。
- ▷ 基礎力が不十分な人は、基礎問題集を使い並行して基礎力強化をはかる。文法・語法はフィーリングで解くのではなく、しっかり根拠を理解し、じっくり考えて解答を出すようにする。特に動詞の語法（ある動詞の前後にどのような形がくるのか）やイディオムや基本的な構文の知識を増強することで、かなりの得点アップが期待できる。
- ▷ センターの問題に一通り目を通し、解答の順番、解答時間を考え、出題形式に慣れる。

＝ 二次・私大対策 ＝

現在、模試偏差値60以上の場合――

- ▷ 難関大学であれば、センター後に二次対策を再開したのでは間に合わない。センター対策に入る前に、どれだけ中身の濃い記述対策ができるかが鍵である。
- ▷ 授業で使用した教科書の復習に、「英語長文問題精講」（旺文社）のような問題集も加え、長文読解力の構築に努める。
- ▷ 英作文の対策は後回しになりがちであるが、早い対策で有力な得点源になる。整序英作文の問題を活用し、頻出構文をマスターしてから、過去問や類題で実戦演習を行う。できれば添削してもらえると理想的。
- ▷ 難関私大は、各大学で個性的な出題をするのでこの時期から過去問演習に取り組む。その際、6割の正答率をめざし、1度だけでなく2度3度制限時間を短くして繰り返す。自分の志望学部以外の過去問もこなせば、なおよい。
- ▷ ただ同じように「全文を解釈していく」のではなく、設問の要求に応じて、読み方を変え、要求されている事項を的確につかむ訓練をする。
- ▷ 話の流れを的確につかむために、段落や意味のまとまりごとにメモを取る。

現在、模試偏差値50前後の場合――

- ▷ 英文読解力をどれだけ伸ばせるかが鍵。英文の和訳を実際に書く練習を多くこなすことから始める。
- ▷ 英文法の重要単元、準動詞、関係詞、時制、仮定法などは必ず押さえておく必要がある。また、語法の知識を問う問題が増加しているので、形容詞や動詞の用法などウェットをおいてやっておきたい。また、文法の出題がほとんどないからといって、文法語法を軽視しないこと。これがしっかりと身につけていないと、正確な読み方ができない。
- ▷ 読解力をつけるには実際に英文に当たるしかないが、その際にレベルには細心の注意を払うこと。
- ▷ 英作文の対策もこの時期からスタートさせる。構文の丸暗記はつらいので、整序英作文の問題を利用して構文力をつけることから始めていく。

現在、模試偏差値45未満の場合――

- ▷ 文法の出題がほとんどないからといって、文法語法を軽視しないこと。これがしっかりと身につけていないと、正確な読み方ができないので、引き続き、基礎問題集を併用し、基礎力の強化をはかる。
- ▷ 毎日1題、自分のレベルに合ったまとまった英文を読むこと。授業のテキストでも過去問でもかまわない。制限時間を決めて、辞書使用は最低限にして内容把握を中心に読み進む練習を行う。
- ▷ マーク問題演習で正解を確認できたら、今度は英文をもう一度見直し、あやふやな部分を再確認し、重要なポイントは書いて覚え、最後は声に出して読んでその英文を自分のものにするようにする。
- ▷ 英作文がある人は大学によって出題形式が異なるので過去問を調べて独自のスタイルを知っておく必要がある。一方でこの時期から運用度の高い基本例文や定型表現をツールとしてマスターしておくことが不可欠。

必勝！ 9月からの学習対策【 数学 】

＝ センター試験対策 ＝

現在、模試得点 160 点以上の場合-----

- ▷ 演習あるのみ。「200点」満点を狙うこと。数学の満点はねらうことに意味がある。「プライド」と「意地」で満点を取れ！
- ▷ 数学は、余裕がある人ほど取りこぼしがある科目。油断せずに毎日少しでも取り組むことが大切！やらなければすぐにカンが鈍っていく。継続は力なり！！
- ▷ 今まで出題数の少ない分野（二項定理など）や範囲外だけど知っておいた方がいい公式（三角関数の和積公式など）もしっかり対策しておけば、本番で慌てることがない。精神的にも安定する。
- ▷ 二次に数学がある人は、12月中旬まで絶対に記述の対策をすること。もちろんセンターの演習も並行して。最近のセンターⅡBはレベルの高いものまで出題されることもあり、センター用問題集だけで高得点を取るのはとても難しい。

現在、模試得点 120 点以上の場合-----

- ▷ マーク模試は積極的に受験。試験慣れと問題慣れが大事。問題慣れにより、解法の引き出しを増やしましょう。
- ▷ センター試験は解くスピードを上げることも大事。時間を意識しながら演習していこう。解けない問題に時間をかけるより、次の大問に進んだ方がいい。
- ▷ 仮に、各大問の最後の空欄を捨てていっても、それ以外を全部解ければ80点以上にはなる。あとは時間と相談してそこに上積みしていくと考えよう。最初から満点を狙わずに気楽に進めるだけで、劇的に点数は変わる。

現在、模試得点 120 点未満の場合-----

- ▷ 受かりたければ毎日やること。1題ずつでも。
- ▷ 少しずつでもセンター用問題集や過去問に取り組みたい。ただし、基本事項の確認ができていないか確認をしながら復習もすること。
- ▷ もちろん覚えているだけではなく、使えなければ駄目なので、教科書やテキストで基本事項を使う練習をする。
- ▷ 計算を嫌がらずにやることも大切。センター試験は計算力がないとキツイ試験なので、とにかく手を動かすこと。
- ▷ 裏技等は直前までやらないこと。今はしっかりした実力をつけてからにしないと、裏技を中途半端に覚えて誤用することになるので、焦らずに取り組むほうがよい。まずは半分でもしっかり解く気持ちで取り組もう。気持ちで負けないように！
- ▷ 各大問の最後のブランク以外は埋める。これを目標にすること。

＝ 二次・私大対策 ＝

現在、模試偏差値 60 以上の場合-----

- ▷ 赤本で傾向をつかんで学習していきたい。過去問を解き始めているべき時期だ。
- ▷ 各大学ごとに、頻出分野の解法パターンを整理し、深くつっこんだ問題演習を行う。また、それ以外の分野も浅くてもよいから対策をとる。
- ▷ 添削指導などで記述の答案作成練習をしっかりと行う。
- ▷ 計算ミスのないように、早く、正確に解くことの訓練が大事。
- ▷ そして、必ず大学別に過去問のノートを作ること。達成感が得られる。
- ▷ 第一志望校の過去問が終わったら、もう1ランク上の大学の過去問で対策をしていくとよい。大学のランクより数学のランクという意味で。

現在、模試偏差値 50 前後の場合-----

- ▷ 数学ⅡB型の人は、センターと二次私大の範囲が重なるので、難易度の差はあるにせよ、まずはセンター対策で数学ⅡBを中心に基本事項や解法パターンの確認。その際、志望校に頻出の分野は徹底的に演習し、確実に得点できるようにする。
- ▷ 数学Ⅲ型の人は当然、数Ⅲで合否が決まるといっても過言ではない。積分を中心に秋からしっかりと対策をすること。極限を軽視している人もいるが、案外そこで差がつきます。きちんとやること。
- ▷ 自分の志望大学のレベルより少し上の入試問題を、たくさんでなくてもいいので解くこと。解答を書く訓練と解法の引き出しを増やしていく。
- ▷ 以上のことを踏まえ添削指導を受けて、答案作成練習をしていくこと。

現在、模試偏差値 45 未満の場合-----

- ▷ まずテキストの復習を行い、解法のパターンや流れをたたき込んでいく。
- ▷ 基本問題を確認。必ず解かなくてはならない問題を落とすことのないよう、頻出問題を徹底演習する。
- ▷ センターと違い、時間的には余裕があるが、解答の流れを自分で作らなければいけない。
- ▷ 証明問題なども含めて、センターでは出題されない問題も練習すること。
- ▷ 数学ⅡB型の人はセンターより少し上のレベルの問題を確実に解けるようになることが目標。
- ▷ 数学Ⅲ型の人は、微分や積分の計算問題を徹底的に行い、グラフを素早く書く訓練を繰り返すこと。

必勝！ 9月からの学習対策【国語】

= センター試験対策 =

現在、模試得点160点以上の場合-----

- ▷ 評論・古文は得意な分野、苦手な分野（例 芸術論が得意、日記文学が苦手）などをつかみ、苦手な文章を練習する。
- ▷ とにかく多くの過去問を解いていく。
- ▷ 解答時間を決めて、その時間より早く終わらせるように意識する。
- ▷ 段落ごとの要点、全体の要旨を正確に読み取り、安易な間違いをなくす。
- ▷ 語彙の問題で満点がなかなかとれない場合、過去問の語彙の問題を集中的に解いてみる。
- ▷ 大問4題の解く順番を定着させていく。

現在、模試得点120点以上の場合-----

- ▷ 大問4題の、時間配分や解く順を考える。
- ▷ 時間内に解けない場合は、どこで時間短縮をすればいいのかを考える。
- ▷ 間違えたところは解説を読み、なぜ、違っていたかということをしっかりと理解する。
- ▷ 模試などで、間違った問題を復習し、まだ覚えていないこと、応用的に使えていない知識の充実をはかる。
- ▷ 漢字や同音異義語をチェックする。
- ▷ 漢文の句形と重要語句をきちんと覚える。
- ▷ 現古漢の中で、苦手な分野を徹底して学習する。
- ▷ 自分の弱点を見つける。文法でも内容合致でも、それに合わせて+αの力をつけていく。内容合致は、正確に本文を読み、選択肢は細部まで確認する。

現在、模試得点120点未満の場合-----

- ▷ 基礎の充実をはかる。現代文では「キーワード」「接続詞」「文章の構成」を押さえて読む。古文では「文法」と「語句」、漢文では「句法」と「重要語句」を徹底して覚える。
- ▷ 過去問を解くにあたり、文章の内容を理解することに重点をおく。部分的な理解でもかまわないので、傍線部の前後をまずしっかりと読み解答を導き出せるようにする。
- ▷ 必ず答えは本文にある。本文をきっちり読み取るようにする。古文も漢文もサブテキスト(参考書)でしっかり確認しながら今までの復習をし、同じような問題は必ず正解に結びつける。
- ▷ なかなか力が伸びないというときは、初心にかえって丁寧に文章を読んでみる。その上で、設問で何を問われているかをよく考えて選択肢を選ぶ。

= 二次・私大対策 =

現在、模試偏差値60以上の場合-----

- ▷ 多くの過去問を解き、時間を意識しながら読み取れるように慣れておく。
- ▷ 設問の中で、得点の高いポイントとなる語句を押さえて記述する。
- ▷ 設問で、何を求めているのかをしっかりと見据え、答えを導き出す。
- ▷ 正確で、わかりやすい文章を書くことを心がける。
- ▷ 同レベルの他大学の過去問も解いておくとうい。

現在、模試偏差値50前後の場合-----

- ▷ 志望大学の過去問最低5年分、解いてみる。
- ▷ 過去問・解答例を見て、何の勉強が必要かを確認する。
- ▷ 全体の要旨を把握し、設問に答えるためのキーワードを正確に見つけられるように訓練する。
- ▷ 字数制限があるものは、まず傍線部から書くべきポイントをつかみ、少し長めに答えを書いてから字数を絞っていく。
- ▷ 答えは本文の中に必ずあるので、丁寧に読んでいくことを心がける。
- ▷ 傍線部にこだわる。現代文では「どの言葉がキーワードか」、古文では「徹底的に品詞分解し、一語の意味も落とさない」、漢文では「句法、重要語句のチェック」。

現在、模試偏差値45未満の場合-----

- ▷ 短い文章でもいいので、毎日1題問題を解いてみる。
- ▷ 過去問を見て、自分に欠けているものは何かを確認し、基礎の充実をはかる。
- ▷ 漢字が苦手な人は、書いて覚える。
- ▷ 入試の頻出分野の文章に慣れておく。
- ▷ 現代文は焦らずに丁寧に読み取る。
- ▷ 設問で何を答えるべきかをしっかりと確認し答える。
- ▷ 古文は参考書にある事項を確認しながら、今までに解いたものを丁寧に復習していく。
- ▷ 漢文は句形と重要語の習得に力を入れる。

必勝！ 9月からの学習対策【理科】

＝ センター試験対策 ＝

A「基礎理科2科目」・B「発展理科1科目」・C「基礎理科2科目+発展理科1科目」・D「発展理科2科目」の4パターンどれかの選択となるが、出願時に申請しなければならないためそろそろ決め時だ。その際には、自分の志望している大学が指定している選択パターンを必ず確認すること。特にCパターンを選択する場合には、科目の重複が可能であるかどうかの確認も忘れずにする必要がある。またDパターンを選択する多くの理系受験者の場合、出題範囲が二次試験とほぼ同じであるため、二次対策の延長として取り組めることをアドバンテージと捉えよう。

この時期、問題を解く時間の意識はあまり重要ではない。確かな知識をしっかりと身につけることが大切であり、また正誤問題に関しても、どこが間違っているのかを根拠をもって選択できる力を養成することが大切である。

現在、模試得点80点以上の場合――

満点こそ君の目標。現時点ではマーク式の問題にこだわらず、記述型の勉強にはげよう。

【物理】

- ▷ このレベルの人には基本的に苦手な分野はないはずなので、得意分野をどんどん増やし強化していこう。
- ▷ 二次で物理を使う人は、立式の根拠を深く考えながら、記述型の答案を意識して問題を解くことを心がけよう。

【化学】

- ▷ この時期、問題を早く解くというよりは、理解度を深めることを意識した学習を心がけよう。物理と違って手計算による四則演算によって解答を求めることが多いので電卓は使わずに、計算ミスがなくす訓練も必修だ。
- ▷ 二次試験で化学を使う人は、どんどん記述型の問題（特に理論分野）をこなし、合格力を磨こう。

【生物】

- ▷ 知識を網羅しているか確認するためには、小問を数多くこなそう。上位レベル者には、私立医大2014年度以後の過去問が最適。不安な箇所については、図説集を精読すること。

【地学】

- ▷ 現時点での弱点分野を確実に克服するよう努力すること。基本的な事項の見落としがないか確認しながら学習していくこと。

現在、模試得点60点以上の場合――

得点8割以上が君の目標。得点アップの障害となっている分野を徹底的に鍛え上げよう。

【物理】

- ▷ まだまだ間に合うので、うろ覚えの知識を得点源になるように変えていこう。

- ▷ 特に「力学」・「波動」は、必ず得点源としなければいけない分野である。グラフ・図形を伴った様々な切り口で出題されるため、諸現象における原理原則をしっかりと深く理解し、入試本番で確実にアウトプットできる知識にしておかなければいけない。そのプロセスを習熟させていくことで得点率を現在の6割から8割へとアップできるのだから。

【化学】

- ▷ このレベルにいる人は、いまひとつ集中しきれていない人が多い。どこを強化したらあと10点得点アップできるのかをもっと真剣に考えてみよう。
- ▷ 多分最大の障害になっているのが理論分野だろう。特に計算問題が中心となる酸・塩基/酸化・還元/電池・電気分解については、無機の知識も含めた出題内容となるため、苦手な人は基本となる考え方をもう一度見直すことから始めてみよう。

【生物】

- ▷ かつて受けたマーク模試の解説を100%理解する。そして、正解ではない選択肢の理由を見極める。仕上げて制限時間厳守でもう一度解く。

【地学】

- ▷ 分野別に基本的事項の再確認が必要。これまでの模試、プリントをできるだけ利用しながら理解を深めていくこと。

現在、模試得点60点未満の場合――

得点7割が君の目標。平均点以上の点数はとれるようになろう。

【物理】

- ▷ 物理は、現象のイメージを明確にできるかが習得のポイント。そのためには時間を惜しんではダメ。この時期こそじっくりと「現象 → 立式 → 解答」のリズムをつかむ訓練をすること。「力学」・「波動」といった頻出分野を中心に、基本事項の確認から演習問題を、解法パターンを理解できるまで徹底的に繰り返してほしい。

【化学】

- ▷ まだまだ時間は十分にあるのだから、まずは何か一つ得点源となる分野を作ろう。その意味で有機分野は、理論・無機とは一線を引いた視点から勉強ができるので、是非突破口としてほしい。とにかく自信をつけることだ。がんばってほしい。

【生物】

- ▷ センター生物は実験考察問題が多い。過去問を少なくとも5年分解くこと。大問のジャンルにより設問と答えには「みんなが知っている暗黙の了解」があるもの。それさえわかれば、安心して前進できる。

【地学】

- ▷ 学習内容を再点検しながら、授業を第一に学習を進めていくこと。

必勝！ 9月からの学習対策【理科】

＝ 二次・私大対策 ＝

理科に限らず国公立二次・私大入試で使うということは、イコール“勝負科目”だということをまず今一度認識する必要がある。勝負科目なのであれば、未着手の分野、苦手な分野があってはならないし、さらに志望大学の入試出題頻出分野であれば、それは是非とも得意分野にしておくべきである。ライバルも同じ意識でいることを認識し、二次試験で逆転できる位の実力をつけておこう。また私立大専願者の場合、センター試験は通過点（力試し）という意識でいた方がいいだろう。1科目とも不得意科目の許されない私立大専願者にとっては、1月末から始まる本試験に向けてのスケジュールリングで行くのが本道だ。

現在、模試偏差値60以上の場合――

このレベルの人は、二次でも“逆転されない”、“逆転できる”実力を確固たるものにしておこう。この時期、センター試験は二次対策の延長と考えていい。

【物理】

▷ 物理の答えは、①立式の根拠（原理・法則） → ②立式 → ③解答 が原則。その中でも①が答案の要となるため、答案を記述する際には、なぜそうなるのか？→どうしてこの式（公式）が使えるのか？を考えて記述する訓練をしておこう。難関大の記述答案作成では、採点者の気持ちになって見やすい答案を書くよう心がけることも大事だ。

【化学】

▷ 自分の志望校より少し高い問題をやるとよい。難関大の場合、理論化学の計算問題はかなり計算力を問われる問題が多い。あいまいな気持ちで計算に進むのは時間の無駄となるので、解答の方針から立式までを吟味する訓練を日頃からしておくべきだ。有機化学の構造決定も広範囲で深い知識を要求されるため、物質の特性から特有反応まで知識をしっかりと定着させる必要がある。

▷ 志望校の過去問を徹底的に研究せよ。出題頻度の高い問題に精通しておくことはもちろんのこと、志望校の過去問（最低3年分）は年内にやっておくこと。

【生物】

▷ 意外と書けないのが、用語の定義（「○○について、○字以内で記せ」）。口では説明できるつもりでも、話し言葉を試験用の書き言葉に置換する作業は意外に時間がかかるもの。早めに仕上げておくこと。

現在、模試偏差値50前後の場合――

このレベルの人は、あと偏差値10アップを目指そう。まだ時間があるので頻出分野を中心に優先順位を決めて取り組めば、必ず実力はついていくはず。標準的レベルの良問で演習を重ね、基礎力を確実なものとしよう。

【物理】

▷ 物理では基本的な法則の理解度と応用力が問われるので、難問に手を出すのではなく、標準的なレベルの問題を中心に、立式の根拠をしっかりと記述した答案を書く訓練をしよう。

【化学】

▷ 志望大学の出題傾向はしっかりつかんでいるだろうか？過去問も最低3年分位は、年内に目を通しておくこと。とにかく大半の受験生が解ける設問を確実に解ければ大きく逆転もされることもない。

【生物】

▷ かつて解いた問題をより短時間で解けるようにする。授業で使ったテキストと模試や高校時代の問題集を解くことで、生物の知識を自在に使いこなせるようになるろう。

現在、模試偏差値45未満の場合――

国公立大学を第一志望としているなら、まずは二次で逆転されない記述力を身につけよう。入試頻出分野が苦手分野となっている人は、そこから始めればよい。時間はあるのだから焦らず、ひとつひとつ確実な知識としていこう。

【物理】

▷ 物理の二次対策には、とにかく「じっくり考える時間」が不可欠。サラッと流すような勉強法では絶対に記述力は身につかない。問題解法の源となる原理・法則を基本からもう一度じっくり考え、立式の根拠を確認することから始めよう。

【化学】

▷ 化学の二次力がない人の多くは、「無機・有機はそこそこ得点をとれるが、計算問題がどうも苦手で……」ということを口にする。しかしそういう人は、苦手な計算問題を補うために、その分得点できる無機・有機を完璧にしようという努力もしていないのが現状だ。それではいつまでたってもこのゾーンから脱却できない。何でもいいからとにかくひとつ分野を絞り、それを得意分野とすることを突破口にしよう。

【生物】

▷ 誤答した設問の解説を理解して、一問ずつ自信の糧にしよう。目の前の一つひとつをこなしていく以外に大きな山を登る道はない。

必勝！ 9月からの学習対策【地理歴史・公民】

＝ センター試験対策 ＝

現在、模試得点80点以上の場合――

- ▷ テキストを重視する。模試の解説を読むときも、テキストの関連事項で復習する。
- ▷ 実際の出題に則し、テーマごとのまとめをしておく。
- ▷ 解答時間を意識して、過去問・マーク式問題集を解く。
- ▷ 弱点分野を中心に参考書などを読んでおく。
- * 歴史分野では、勉強の合間を使って、図説を読んでおく。定番のものではなく、今まで注意しなかったものを中心に。
- * 世界史では、現代史分野に、必ず目を通しておくこと。
- * 日本史では、明治以降の文化史を、確認しておくこと。
- * 地理では、基本的な「地形図の読図」と各種「統計や分布図の読み取り」は必出。
- * 政経・現社であれば、計算式や統計、倫理であれば近代思想などが必出。
- * 公民分野は、歴史的背景等と関連づけながら学習するとより効果的。

現在、模試得点60点以上の場合――

- ▷ テキストの重要事項をしっかりと把握すること。テキストの演習・基本問題、また模試を再度解答してみることで、重要事項が確認でき、自分の弱点分野が見えてくる。
- ▷ 早とちりしたり、ケアレスミスで失点する場合も多いので、十分に問題文を読み、対応する実力をつけれること。
- ▷ 二択まで絞れるけれど逆を選択してしまう。点数にバラツキが出る。記憶があいまい。キーワードを知っていても、その意味まで覚えていないような場合は、問題集や参考書で+αの知識をつけることを心がける。
- ▷ カンではなく、根拠を持ってマーク問題集を解く。
- * 日本史では、文化史注意。
- * 世界史では、一つの時代、一つのテーマ、一つの地域の学習に止まらずに、原始、オリエントから第2次大戦後の現代までを「幅広く」「基本事項」を確認しておく。
- * 地理では、「地図や統計の分析力」「総合的な判断力」が大事。実戦的な問題に当たってみること。

現在、模試得点60点未満の場合――

- ▷ 模試は必ず復習する。解答解説を熟読し、基本事項をものにする。
- ▷ 「センター試験」は「高校段階における基礎的な学習の達成度を判定する目的…」なので、難問奇問の類が出題されることはない。
- ▷ 地歴・公民では、最低限の暗記は嫌がらずにすること。
- * 歴史分野では、年表・図説を身近において事件の「因果関係」を押さえること。
- * 用語と年号を再チェック。用語はそれを使う時代を意識して。年号は正誤問題、並べ替えで使える。
- * 政経・現社は、衆議院と参議院のちがいが、円高や円安によりもたらされると考えられることなど、理解できているか。一問一答問題集で基本知識の整理を。
- * 倫理は、一問一答で基本知識の整理。

＝ 二次・私大対策 ＝

現在、模試偏差値60以上の場合――

- ▷ 全体を把握して、部分を理解することで難問も解けるようになる。政治・外交・社会・経済などを構造的に理解するよう心がける。
- ▷ 最近の国公立大二次・私大入試では、50字～100字程度の記述論述問題が増加している。「問題文をよく読んで、その意図は何かという読解力」が求められている。
- ▷ 過去問から出題傾向を探り、問題レベルの難易をとらえ、演習にあたることが大事。「総合的な考察力」を問われるだけに、十分な演習時間を取りたいもの。練習すれば論述のコツが見えてくる。
- ▷ 過去問を10年分は解いてみる。「問題文」自体が、テーマ史の参考になる。
- * 公民分野では、時事的内容を確認しておくこと。「朝日キーワード」や「現代用語の基礎知識」または公務員試験用の時事問題の参考書を利用。

現在、模試偏差値50前後の場合――

- ▷ もう一度基礎に戻る。難問ではなく、定番の問題を確実に取れるようにする。
- ▷ 志望大学の傾向は事前に十分把握しておくこと。過去問に着手する。
- ▷ テキストと資料集・地図帳を十分に活用し「書くべき事項を箇条書き」にあげ、順序を追って書くことが大切。
- ▷ 初見史料・資料を怖れずに！史料・資料から自分の知っている用語や事実を探し、ヒントを得る。出典や脚注、設問自体にもヒントが隠されているはず。
- ▷ 「一問一答」のような暗記で終わらないよう、常に原因・経過・結果・影響などを考えながら学習すること。
- * 歴史科目では、時代・地域のタテ・ヨコ関係を意識すること。
- * 地理の記述問題では、一般に、地理的用語や地域性などを10～100字程度で説明するものが多い。また、論述では、「なぜそうなるかを、多角的に論じ」、「地域を比較し、総合的に論述」「環境と関連づけて論ぜよ」のものが中心である。したがって、基本的な事項や知識をふまえての「作文力」が大きくものをいう。

現在、模試偏差値45未満の場合――

- ▷ まず、用語の再確認。意味はもちろんだが、その用語をどの時代のどのテーマで使用するか確認し直すこと。
- ▷ テーマ別に教科書の本文を注意深く読み取る。年表・地図帳の活用を十分に。基礎力のチェックを！
- ▷ 基本的事項をしっかり押さえ、用語を要領よく説明できるようにする。
- ▷ 穴埋め問題対策には、一問一答問題集や穴埋め問題集を使う。基本かつ重要な用語は、説明できるようにしておくこと。